

## 〔論文執筆のため参考資料〕

以下は参考資料となります。できる限り以下を守って論文を執筆してください。  
なお、本文文字数が規定を超えるものは審査対象外となりますのでご注意ください。

### I. 本文作成上の留意事項

1. 原稿の応募規定に関する留意事項は、「募集要項」を参照のこと。
2. ページ設定はA4、横書きで、1ページの文字を40文字、1ページの行数を30行とする。

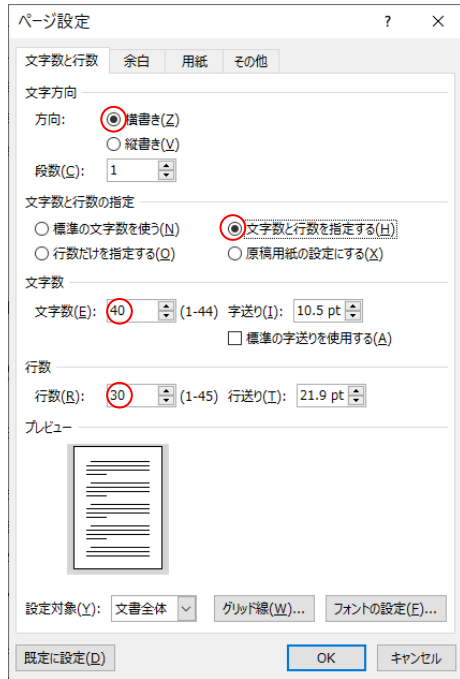


図1. ページ設定

3. 論文の冒頭には、「タイトル」「目次」をつける。
4. 本文の最後には、参考文献および参考URL（引用した文献およびURLを含む）の一覧を明示する。
5. 本文の節にはローマ数字（ゴシック「I, II, III, …」）を付番し、項には算用数字（ゴシック「(1), (2), (3), …」）を付番する。
6. 本文の句読点は、句点（。）と読点（、）を使用する。
7. 傍点はその文字の上におき、「・・・」とする。
8. 図および表は、それぞれ上部に通し番号と図および表のタイトルを付して本文中に配置する。  
(例) 図1 ×××××
9. 図および表に関する注および出所（引用した場合のみ）は、フォントサイズを小さくして図表の下に明記する。記載の順序は、[注→出所]とする。
10. 注記は、1論文にわたる通し番号を付して、論文末尾に一括記載する。
11. 本文中の注番号は、右肩に記入する。(例) ……である<sup>1)</sup>。
12. ページ番号を下部中央に記載する。  
(原稿の書き方は、[「論文・レポートのまとめ方」](#)（当委員会Webサイトに掲載）を参照してください）

### II. 引用文献の表示に関する留意事項

1. 本文中で引用文献を表示する場合、(i)文末注記に含めて表示するか、または(ii)本文中に付記する。1論文にわたり、いずれかの形式に統一して表示すること。
2. 引用文献を文末注記に含めて表示する場合は、以下の点に留意すること。
  - (1) 引用文献は、次の順序で表記する。
    - a) 単行本の場合：著者（編者）名 書名・版 発行地（外国文献のみ）：発行所 発行年 頁数
    - b) 論文の場合：著者名 論文名 雑誌名 巻数および号数 発行年月日 頁数
  - (2) 書名および雑誌名は、和文の場合には『 』で囲み、欧文の場合にはイタリックで表記する。
  - (3) 論文の題名は、和文の場合には「 」, 欧文の場合には“ ”で囲む。  
(日本語文献の例)

a) 単行本

・ 山口利夫著 『資産価格の理論』 三菱経済研究所 2003年 153頁

b) 論文

・ 高木貞樹 「国際租税関係(組合員課税を含む)」 『旬刊経理情報』 1082号 2005年5月 28頁  
(外国語文献の例)

a) 単行本

・ Scholes, Myron S., Mark A. Wolfson, Merle Erickson, Edward L. Maydew, and Terry Shevlin, *Taxes and Business Strategy: A Planning Approach 4<sup>th</sup> Edition*, New Jersey: Prentice Hall, 2008, pp.137-139.

・ Coase, Ronald H., *The Firm, the Market, and the Law*, Illinois: The University of Chicago, 1988, p.38. (宮沢健一・後藤晃・藤垣芳文訳 『企業・市場・法』 東洋経済新報社 1992年 43頁)

b) 論文

・ Shackelford, Douglas A, and Terry Shevlin, “Empirical Tax Research in Accounting,” *Journal of Accounting and Economics*, Vol.31, No.1(September 2001), p.330.

(4) 既出の文献を繰り返し引用する場合は、次のように省略して記載してもよい。

a) 直前に注記した文献を再び示す場合

(例) 同上書 153頁 同上論文 28頁 Ibid., p.330.

b) 既出の文献を再び示す場合

(例) 山口利夫 前掲書 153頁 高木貞樹 前掲論文 28頁

Shackelford and Shevlin, op. cit., p.330.

3. 引用文献を本文中に付記する形式で表示する場合は、本文中に筆者名、発表年および頁を丸カッコ( )に囲んで入れる。

(例) 「……」という見解もある(山口 [2003] 153頁)。

……と説明されている(高木 [2005] 28頁)。

Shackelford and Shevlin ([2001] p. 330)によると、……。

4. Webサイトから引用する場合は、サイト名、URLおよびURL確認日を記載する。

(例) 桃山学院大学 <http://www.andrew.ac.jp> 2017年4月1日確認。

### Ⅲ. 参考文献・参考URLのリスト作成に関する留意事項

1. 参考文献の一覧は、論文の最後に、日本語文献(著者氏名の五十音順)、外国語文献(ファミリーネームのアルファベット順)の順に記載する。
2. 参考URLは、参考文献に続けて、アルファベット順に記載する。
3. 参考文献および参考URLの表記については、前述の「Ⅱ. 引用文献の表示に関する留意事項2(1)~(3)」を参照すること。

### Ⅳ. 著作権に関する留意事項

1. 他の著作物から図表、写真あるいは文章の一部をそのまま転載する場合には、必ずその著者および発行者の許可を求めなければならない。

以上